

【教育問題委員レポート】

令和3年度 地域を編む孤立0（ゼロ）プロジェクト 合同研修会 ～ 地域で取り組む教育問題に目を向けて ～

はじめに

今年度教育問題委員会では、会員の皆さんに、「気付き（学び）の種」を提供することを目的として、様々な講演会に参加した内容を広報誌やホームページに掲載して会員に知らせていくこととしました。

今回ご報告いたします研修会は、貧困や虐待、不登校、ひきこもりなどの生きづらさを抱える子ども・若者の増加に対し、地域全体で子ども・若者を見守り、育む必要性が高まっていることを背景として、すべての子ども・若者が、夢と希望をもって未来を切り開いていける社会の実現に向けて、関係機関・団体等が密接な関係で複合的支援活動を推進するために、地域で活躍する育成者、支援者が知見を広げ、課題や情報の共有を図ることを目的として開催されました。ここではその概要をご紹介します。

1) 地域ので、孤立しない・させない社会づくり

講師：グッジョブセンターみと

センター長 小鷹 美代子 様

ひきこもり、不登校など、生きにくさを感じている方々を支援している団体「グッジョブセンターみと」の小鷹先生より、ひきこもり、不登校がなぜ「社会の問題なのか」について氷山に例えた提起が示され、「地域共生社会」の実現に向けて、地域での孤立ゼロを目指すために、「居場所づくり」の取り組みを掲げた「グッジョブセンターみと」の活動についてご紹介がありました。

※「地域共生社会」について

[地域共生社会のポータルサイト | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp)

※「孤立支援」について

[孤独・孤立対策 | 内閣官房ホームページ \(cas.go.jp\)](https://cas.go.jp)



「グッジョブセンターみと」の活動

- ①居場所・たまり場の提供
- ②就労体験
- ③個人向け相談・支援
- ④ひきこもりの親の会「てふてふの会」
- ⑤コスモス Girls（女子会）
- ⑥SST（ソーシャルスキルトレーニング）ワーク
- ⑦おしゃべり食堂

2) 少年非行に隠された社会的背景

講師：水府学園（茨城町）

院長 根岸 正樹

少年院「水府学園」の根岸院長より、過去の統計データをもとに、最近の少年院に収監される未成年の傾向や非行少年は年々減少傾向にある一方、「うそをつく」ことに抵抗感が低下していることなどの少年院という私たちに馴染みのない施設に関する情報を聞くことができました。また、高校中退者が多いため、高校卒業程度の資格を取らせ、社会への再復帰に向けた対応やコロナ禍となる以前は地域の方々との交流も活発に行っていたことなど、少年たちの更生に向けての活動が、多くの方の関わりの中で行われていることがわかりました。



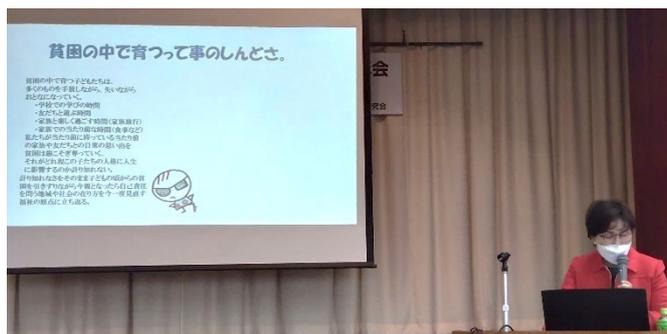
3) 子どもの貧困問題について考える

講師：認定 NPO 法人 NGO 未来

の子どもネットワーク

代表理事 笠井 広子

子どもの貧困問題について、貧困の中で育つことのしんどさや本来あって当たり前なことができないことなど、貧困を受け入れざるを得ない子どもたちの現実を説明いただきました。靴を買えないため、つま先の全ての指に血マメができて、その靴を履き続けるしかない子やコロナ禍でリモート授業となったとき、「wi-fi の貸出しなんていない」と言った子（ポロポロの部屋や裸でうろつく家族が同級生に見られてしまうため。）など、子どもの貧困の現実を目の当たりにして声を無くしました。また、笠井先生は「子どもは一番死に近い存在、なぜなら、自分の環境を変えることができない。」とおっしゃっていましたが、子どもの成長に必要な環境を整えることは、大人の責任であることを考えさせられた一言でした。



※「未来の子どもネットワーク」ホームページ

[認定 NPO 法人 NGO 未来の子どもネットワーク | 茨城県 \(miranet.or.jp\)](http://miranet.or.jp)

4) 茨城県内の不登校等の支援活動について

講師：不登校・多様な学びネットワーク茨城

世話人 石田, 木村, 中谷

不登校・多様な学びネットワーク茨城は、現在86団体のネットワークで構成されており、「活動を支えるつながり」「子ども同士のつながり」「子どもを取り巻く環境をより良くする」の3つのつながりを柱として活動しているとのことです。小学生の不登校が増加していることから「いばらき不登校・多様な学び育ち応援サイト」を立ち上げ、間もなく完成予定とのことです。世話人の中谷先生は、不登校の子どもたちのためにフリースクールを立ち上げたが、有料であるため、自分に合ったフリースクールなのに貧困が壁となり、通うことが叶わない子がいることもふれていました。また、「教育機会確保法」に関する説明もあり、不登校や多様な学びを支える法整備について知ることができました。



※「いばらき不登校・多様な学び育ち応援サイト」

[いばらき不登校・多様な学び育ち応援サイト／茨城不登校情報 \(ibaraki-futoukou.net\)](http://ibaraki-futoukou.net)

最後に

この度の研修会に参加したことで子どもの成長に多くの大人の関わりが不可欠であることと、問題となっていることに対して、壁をつくらず、前向きに向き合う姿勢が大事であると実感しました。現在は、コロナ禍の中で様々な活動に制約を受けながらも学校運営やPTA活動では工夫を凝らし、昨年よりも多くの活動ができてきたと感じております。

子どもを取り巻く問題に向き合い、自分では何ができるかを考えていきたいと思っております。

(記録 令和3年度 教育問題委員会委員 手塚 啓之)